

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	NHK川口施設(仮称)	階数	地上4階
建設地	埼玉県川口市	構造	SRC造
用途地域	第二種住居地域、	平均居住人員	800人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,781時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2025年12月20日
敷地面積	21,995 m ²	作成者	小林利道
建築面積	11,666 m ²	確認日	2025年12月20日
延床面積	28,528 m ²	確認者	小林利道



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 138 (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 77%

④上記+: 77%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.0

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 建物の高さを抑え、多くの緑を配置することで豊かな地域環境をつくり、外部に面して大きな開口部を設けることで施設利用者が外気、自然光や緑を享受できる建物とした。高効率のLED照明器具や節水型の機器を用い、省エネルギーに配慮をした。	その他 0	
Q1 室内環境 ・控室や事務室に大きな開口部を設け開閉可能な窓により直接外気に触れることができるようにした。 ・テレビスタジオとして適切な音環境となる計画とした。	Q2 サービス性能 ・建築基準法に定められた25%増の耐震性を確保した。 ・非常用発電機を備えることで、災害時の建物機能維持に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・住宅地やSKIPシティに面して緑を設けることで、憩いの空間を創出した。 ・バルコニー、屋上、テラスに地植えの植栽を計画し、自然の移ろい豊かな外観とした。
LR1 エネルギー ・適切な断熱仕様やLow-Eガラスの採用等の外皮性能確保により、建物の外部熱負荷の最小限化を図る。 ・各室の特性を鑑み、各々に適した空調方式を採用し省エネに配慮した。	LR2 資源・マテリアル ・節水器具やリサイクル材料を使用することで、環境資源に配慮した。 ・雨水利用システムを導入し、散水には雨水を活用した循環システムを構築し、灌水設備の省力化を図る。	LR3 敷地外環境 ・広い敷地を生かし、高さを抑え存在感を和らげることで周辺地域と調和し、親しみのある施設とした。 ・地表面被覆材や屋根面緑化等に配慮し敷地外への熱的影響を低減した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
NHK川口施設(仮称)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									3.9
Q1 室内環境			0.40						3.9
1 音環境		4.6	0.20						4.6
1.1 室内騒音レベル	【スタジオ】30dB以上	5.0	0.67						
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音	壁・天井:グラスウール系吸音天井材	4.0	0.33						
2 温熱環境		3.7	0.47						3.7
2.1 室温制御		4.0	0.50						
1 室温	夏期26°C、冬期22°C	4.0	0.38						
2 外皮性能	窓システムSC:0.45、外皮性能U値0.5未満	4.0	0.25						
3 ゾーン別制御性	空調機(AC)4管式	4.0	0.38						
2.2 湿度制御	加湿・除湿機能を有し、夏期60%・冬期45%	4.0	0.20						
2.3 空調方式		3.0	0.30						
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境		4.0	0.33						4.0
4.1 発生源対策		4.0	0.50						
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を床・壁・天井・天井裏の70%以上に採用	4.0	1.00						
4.2 換気		4.0	0.30						
1 換気量	30m3/h人以上の機械設備を設置	4.0	0.50						
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮	汚染源のない方位から外気取入れ、排気口と6m以上離れて設置	4.0	0.50						
4.3 運用管理		4.0	0.20						
1 CO ₂ の監視	CO ₂ 計測実施	5.0	0.50						
2 喫煙の制御		3.0	0.50						
Q2 サービス性能			0.30						3.6
1 機能性		3.4	0.40						3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40						
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画		3.0	1.00						
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30						
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画	インテリアベースにて内装計画を事前に検証	4.0	1.00						
1.3 維持管理		3.5	0.30						
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い内装材を採用し異なる床材を接近させない、風除室扉の間隔に配慮し、外部に露出する金属部材は亜鉛メッキ又はステンレス製を採用	4.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50						
2 耐用性・信頼性		3.6	0.30						3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%の耐震性を有する	4.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上にB種使用、Eは不使用とする	5.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20						
2.4 信頼性		3.6	0.20						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20						
3 電気設備	非常用発電を設置、地下空間への設置なし	4.0	0.20						
4 機械・配管支持方法	耐震クラスS	5.0	0.20						
5 通信・情報設備		3.0	0.20						

3 対応性・更新性			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり						
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.09	5.0	1.00	-	-	
3.2 荷重のゆとり		7,000N/m2(床版用)、3,200N/m2(柱用)、2,100N/m2(地震用)	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造・仕上材を痛めることなく更新・修繕できる	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造・仕上材を痛めることなく更新・修繕できる	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.0
1 生物環境の保全と創出		50%以上緑の量を確保、自生種の保全に配慮した緑地づくり	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		植栽により、良好な景観を形成、周辺の場所からの憩いの空間を創出	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		プロムナードや敷地外と一体化した広場提供による地域への貢献	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		緑化や庇等の設置、排熱を伴う建築設備の配置に配慮	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI]=0.56	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI] = 0.70	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	中央監視システムにてデータ管理機能により計測比較可能	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	発電量を管理	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		自動水栓設置、節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用システム導入(中水)	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		プラスチックデッキ材(バルコニー)仕上床材(ビニル系床材)天井仕上材(吸音材料)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		フリーアクセスフロアの採用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法対象物質を含有しない材料を使用(接着剤)	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=50未満の発泡材を使用	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率96%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8
2.1 大気汚染防止		超低Nox「グレードAA(熱効率95%)」排出基準を大幅に抑えている。	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		隣棟間隔を工夫、屋根面緑化	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場、駐車場を確保。荷捌き用車両の駐車スペースを確保。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」「広告物照明の扱い」の配慮事項を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	NHK川口施設(仮称)	BEE	3.1	BEEランク	★★★★★
------	-------------	-----	-----	--------	-------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.9	+	4.0	=	7.9	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上			すばらしい 8.0以上

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.9
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.9
高効率のLED照明器具や節水型の機器を用い、省エネルギーに配慮した。 地表面被覆材や屋根面緑化等に配慮し敷地外への熱的な影響を低減した。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	4.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	4.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	4.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	4.0
敷地外周部、バルコニーや屋上に多くの植栽を計画した。 敷地内を歩く利用者への暑熱環境を快適にし、敷地外の熱的な影響も抑えるよう配慮した。			

:入力欄